

平成17年度 試験研究(事後)評価整理表

整理表3

試験研究機関名 農業試験場

所管グループ 研究開発G

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験期間		評価結果	コメント	外部評価アドバイザーのコメント
	施策目標	研究課題分類				開始	終了			
1	4-1多彩な農業の展開 4-2品目別生産の展開 5-1先端技術等を利用した高度な技術の開発	県オリジナル品種の高品質・安定生産技術の確立	地域特性にあった県産銘柄米の高位安定生産技術の確立(1)ふくみらいの栽培法に関する試験	ふくみらいの品質低下要因である乳白粒の発生を抑え、かつ良食味米を生産する栽培法と生育診断技術を確立する。	ふくみらいの品質低下要因である乳白粒の対策として、適正初穀の範囲、追肥の目安等の栄養診断指標、刈り取り適期幅を明らかにした。	平成12	平成15	B	当初の目的をほぼ達成しており、成果の公表、普及がなされている。	地域の農業の未来のため、成果を上げ公表し、農業者への普及がされた。普及させたと考える成果の受け入れられ方はいかがでしたか？
2	5-1先端技術等を利用した高度な技術の開発	水稲直播栽培技術の確立	地域特性にあった県産銘柄米の高位安定生産技術の確立(2)水稲有望系統の品質向上に関する試験	会津山間地及び阿武隈山間地域における「ゆめさやか」の施肥法及び栄養診断法を確立するとともに、湛水直播栽培による省力生産技術について検討する。	1 会津山間地及び阿武隈山間地域におけるゆめさやかの生育指標と栄養診断法を確立した。 2 湛水直播栽培において、肥効調節型肥料を用いる基肥一発施肥技術を確立した。	平成14	平成16	B	得られた成果は高冷地における売れる米作りを推進する上で重要である。	今後、得られた成果は、農業者へどのような方法にて、還元されるようお考えでしょうか。
3	4-1多彩な農業の展開 4-2品目別生産の展開 5-1先端技術等を利用した高度な技術の開発	高品位・安定多収・低コスト生産技術の開発	水稲直播栽培における投入資源の最大利用効率、最小アウトプット技術の確立	水稲直播栽培(特に乾田直播)において、窒素の溶脱抑制技術を明らかにするとともに、登熟過程の養分動態を把握し、環境負荷の少ない直播栽培技術を確立する。	乾田直播では、窒素の地下溶脱量が浸透水量に比例して多くなること、緩効性肥料を使用することで溶脱量を低減できること、登熟期間のケイ酸の吸収量が増加することを明らかにした。	平成11	平成16	C	既存技術の解析ができたことは評価できるが、中間評価以降の研究計画、結果の解析が不十分である。	稲作における環境保全と栽培の効率性を高める上で効果的な課題で、実態の把握と緩効性肥料の利用方法の改善に効果が認められる。
4	4-1多彩な農業の展開 4-2品目別生産の展開 5-1先端技術等を利用した高度な技術の開発	計画的出荷のための予冷技術の確立	品種・流通体系に応じたサヤインゲンの鮮度保持技術の開発	県内主要品種の鮮度保持特性を明らかにするとともに、包装資材等を利用した鮮度保持技術の開発を行う。	県内主要品種「いちず」の鮮度保持特性を調査し、収穫時の最適な莢長、鮮度保持に有効な包装資材、予冷後の温度条件等を明らかにし、品種・流通体系に応じたサヤインゲンの鮮度保持技術を構築した。	平成14	平成16	C	県産インゲン主要品種の鮮度保持特性の解明等により、長距離輸送に耐える鮮度保持技術を確立したが、現在の輸送体系は冷蔵輸送に対応していない。	市井で購入した際、乾燥気味のインゲンに出会うことがあります。鮮度保持の対策は生産者・消費者ともに重要であると考えます。
5	4-1多彩な農業の展開 4-2品目別生産の展開 5-1先端技術等を利用した高度な技術の開発	環境保全型農業における環境負荷の軽減技術と評価法の確立	環境保全型農業における環境負荷の軽減技術と評価法の確立	施設栽培の果菜類(キュウリ、トマト)について慣行栽培より総窒素施肥量及び灌水量を削減した施肥技術の開発を行う。	灌水同時施肥システムに土壌水分センサーを組み合わせて用いることで、作物の生育や土壌の水分状態に応じた精度の高い施肥システムを開発した。また、併せてシステムの効果と経済性について現地試験を実施した。	平成11	平成16	B	生産性を維持し環境負荷の少ない施肥技術を開発し、当初の目的はほぼ達成された。	施設栽培における窒素施肥とかん水を協調させることで、環境保全効果の高い体系が構築できたと認められる。
6	4-2品目別生産の展開 5-1先端技術等を利用した高度な技術の開発	中山間地域の公的支援を活用した地域の活性化方策の確立	中山間地域等直接支払制度を活用した地域の活性化	中山間地域の特性を解析するとともに、公的支援活用の事例分析から地域振興のための条件と課題について明らかし、地域活性化システムを構築するとともに、活性化に向けた組織体制を明らかにする。	公的支援による地域振興のために集落活動の活動内容・活動体制、効果をアンケート調査により分析し、活性化の条件と課題を明らかにし地域活性化システムモデルを構築した。	平成14	平成16	C	地域活性化の仕組みを明らかとしたが、活性化のための手法および組織のあり方が検討されていない。	予算と人員が小さい中で、一定の成果を生んだと考える。また残された課題も明確にされており、全面的ではないが、概ね目的を達成したと考える。

平成17年度 試験研究（事後）評価整理表

整理表 3

試験研究機関名 農業試験場

所管グループ 研究開発G

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	実施期間		評価結果	コメント	外部評価アドバイザーのコメント
	施策目標	研究課題分類				開始	終了			
7	4-2品目別生産の展開 5-1先端技術等を利用した高度な技術の開発	ふくしまのまゆ・シルク等生産技術の確立	育蚕技術の改善に関する試験	一般生糸用の繭生産において、作柄の安定や省力化が期待できる人工飼料を利用して、高品質繭の低コストで安定的な多収生産技術を開発して、養蚕農家の経営改善に資する。	1. 福島県で普及する湯練り人工飼料に抗酸化物質などを添加することにより、虫菌質が向上した。 2. 低価格ではあるが、不安定な壮蚕期用湯練り飼料の物理性を改善することによって、3 齢期からの使用を可能にした。 3. 湯練り飼料の原体が製造中止となったため、これに替わる入手しやすく低価格の人工飼料を適用した稚蚕飼育技術を確立した。	平成12	平成17	C	湯練り飼料原体の製造中止によって、本手法による目的の達成はできなかったが、代替飼料を用いた稚蚕飼育技術を確立したことで、目的を部分的には達成できた。	湯練り飼料原体の製造中止がありながら、代替飼料で対応する等の成果を上げており、全面的ではないが、概ね目的を達成したと考える。
8	4-2品目別生産の展開 5-1先端技術等を利用した高度な技術の開発	ユリ類の新品種育成	ユリ類の新品種育成	1 既存品種と比較して形質に優れた白色系シンテッポウユリの新品種を育成する。 2 白色系のシンテッポウユリと、本県に自生しピンクの花色を有するヒメサユリなどの種間交雑により、有色系の新品種（種間雑種）を育成する。	1 シンテッポウユリの優良個体間の交雑を行い、採花率および形質の均一性が高い系統を選抜し、特性を評価した。 2 シンテッポウユリと有色のヒメサユリ等を交雑し、胚培養により系統を得た。	平成13	平成17	D	研究目的である、形質の優れた新品種の育成には至らず、研究を継続しても研究目的を達成することは困難と判断した。	オリジナル品種の育成は花き農業の重要な振興施策であり、今後も生産現場への継続的な支援が期待される。